

人が集まる憩いの場所

活動先:NPO 法人あかり

1. 活動先の紹介

あかりは常滑に根付く「困ったときはお互い様」の精神で、活動者も利用者も賛助者も対等という考えから「街に小さな灯りを灯しませんか」を合言葉に平成8年10月に有償のボランティアグループとして始まりました。

現在あかりの活動内容としては「たすけあい」、「介護保険・障害福祉サービス」、「地域交流」があります。あかりは地域との交流を重視しているNPOで地域とのつながりを大切に活動しています。

○たすけあい

- ・住宅福祉サービス〔訪問して、簡単な介護・家事援助を行う。〕
- ・移動サービス〔通院付き添い・買い物付き添い移送サービスを行う。〕
- ・子育て支援サービス〔家族が留守になる時・育児ができない時の協力をする。〕
- ・ふれあいハウス〔誰でも参加することのできる家庭的なミニデイサービス。〕
- ・ふれあい弁当〔毎週木曜日に手作りのお弁当を届ける。 40食程度〕

○介護保険・障害福祉サービス

- ・ヘルパー派遣〔訪問介護事業所としてヘルパー派遣を行う。〕
- ・ケアプランの作成〔居宅介護支援事業所としてサービス計画を共に考える。〕
- ・デイハウスあかり〔通所介護支援事業所としてサービス計画を共に考える。〕

○地域交流

- ・街かどサロン『おいで屋』〔地域のあつまりの場になるように、お茶、食事を提供し、手芸・絵手紙・和菓子作り・茶華道等を行います。〕
- ・街かどサロン『なごみ舎』〔会員の集まり場として、さおり織り・太極拳等を行う。〕
- ・講演会、研修会〔一般対象講座・会員対象〕
- ・見学会、交流会〔会員対象〕
- ・ボランティア〔施設・個人の傾聴ボランティアを行う〕

2. 当初の活動目的や目標

<活動目的>

活動先の成り立ちや活動内容を知ると同時に自分たちの企画したものが活動先でどのような影響を与えるのかについて知ることが目的とする。

<活動目標>

- ・サービ斯拉ーニングの活動を通して利用者の方や地域の方との関係を理解すること
- ・自分たちの計画した企画を職員の方々と協力して成功させる。
- ・サービ斯拉ーニングの活動をきっかけとして、その場所に住む地域の方々と関係を築く。
- ・あかりが地域にとってどのような影響を与えているのかを学ぶ。

3. 自分たちの活動内容

あかりでの感謝まつりで行った企画を中心に大きく6つに分けて活動を行いました。

○あかり感謝まつり実行委員会への参加

まず、感謝祭りとはあかりが地域交流やあかりを地域に知ってもらうことを目的とした行事のことです。今回の活動で私たちはそこで自分たちの考えた企画(風鈴づくりの体験コーナー、自分たちの地元のお菓子のふるまい、アンケートの実施)を行うために感謝まつりの内容をきめる実行委員会に入れてもらいスタッフさんと協力して感謝まつりの計画を立てました。

○デイサービスへの参加

あかりが普段行っているデイサービスに参加させてもらって利用者さんとの交流とデイサービスのスタッフさんの活動を一緒にさせてもらってあかりの雰囲気やそこにいる人たちの様子を詳しく学ぶことができました。

○利用者さんと一緒にお菓子を作る

私たちが行う企画の一つの地元のお菓子作りを感謝まつりの予行練習として利用者さんたちと一緒に作りました。作ったお菓子はマルボーロという九州のお菓子で初めて見る人も多く皆で楽しんで取り組みました。他にも本番でふるまうときのマルボーロの硬さなどの注意点についても確認することができました。

○利用者さんと一緒に風鈴を作る

感謝まつりのときに行う紙コップと鈴、糸で作ることのできる風鈴の作成を本番がスムーズに行えるように利用者さんとスタッフさんに協力してもらい一緒に作成しました。最初のうちは課題がたくさんありましたがスタッフさんからのアドバイスもあり徐々に完成度の高いものが作れるようになりました。

○感謝まつり本番

私たちが実行委員会のなかで提案した体験型の風鈴づくりと地元のお菓子のふるまいを行いました。風鈴の企画はデイサービスのほうで何回も試させてもらっていたおかげで特に問題もなく行うことができました。事前に参加の券を配っていたのですが券がなくてもやってみたいという人がでてきて自分の考えていたよりも好評で参加させてもらって良かったと感じました。地元のお菓子の企画の方も事前に準備がで

きていたので来てもらった方々にきちんとふるまうことができました。

○アンケートの実施

自分たちの企画した体験型のコーナーの他に感謝まつりにきてくれた人たちを対象にあかりが地域にどのように認知されているかということについてアンケートを実施させてもらいました。そこからあかりと地域とのつながりについて学ぶことができました。

4. 活動における課題

あかりのデイサービスを経験させていただくなかで、利用者の方と職員の方との関わりにおける疑問に対しての解決方法や、自分たち学生が普段の生活行動にどこまで関わっていけばよかったのかということを知ることが短く把握できていなかった点がある。そのことに関して、私たちはこういったサービスラーニングという貴重な場で学ばせていただいていることを念頭において、自分たちからわからないことを職員の方にきくべきだったという課題が残った。

さらに今回、私たちは「あかり」の実行委員会にまで参加させてもらい、感謝まつりの企画や細かい決め事の話し合いにも加わらせていただき、自分たちが企画した催し物は成功できたと感じたが、感謝まつりに力を注いでいたほかのスタッフの方の事業については詳しく知ることができなかった。この短い日数の中で自分たちの活動で手一杯になり、自分たちの知らないところで地域や利用者の方の家族に働きかけるなど、独自の活動を知ること、あかり全体をより深く知ることができたのかもしれないといった問題点も今後の課題として挙げられる。

5. 活動を通して学んだこと

あかりで活動を行い職員の方や利用者の方と関わってわかったことは、自分の親族と一緒に過ごしているかのような雰囲気や常に関わりあっている職員の方と利用者の方の両方ともつくっているということだ。職員の方は常に笑顔で働いており、利用者の方はその明るい雰囲気や笑顔になっていた。誰一人として利用者の方に強制することはせず、普段の生活をデイサービスの仲間と楽しく過ごせる空間作りをその場にいる全員で行っているということがわかった。また、自分たちの企画した風鈴作りと丸ボーロ作りはデイサービスでも行ったが、いかに興味を持ってもらい全員で楽しく行ってもらえるかということ、あらかじめ考えてある程度準備をしておかなければ、考えていたとおりに実行することは難しいと学んだ。

さらに、小規模施設だったので利用者の方と多く関わりやすく、個々人の特性もある程度までは把握しやすかったが、関わり方はそれぞれの利用者の方で異なり、自分たちがどのように接するべきなのか判断しづらいことも多かったため、職員の方を見て学ぶところが多かった。自分の考えだけで利用者の方に接するのではなく、場面ごとにどう

対応するのがよいかということを実践しながら学べたように思う。また、あかりで活動するにあたり、ほかの活動先や地域と連携したり、あかり以外でも様々な交流を行ったりしていることもわかった。そのことにより、NPO の地域への働きかけや制度の重要性、地域住民に広く理解してもらうことの意義などを知ることができた。

6. 活動先への提案

あかりは会員や賛助会員で援助があると思うが、さらに活動を豊富にしたり支援内容を幅広くしたりするためにはそれに関する資金が必要であると考えます。そのために、認知度向上も含めてあかりについてもっと常滑の住民の方に関心を持ってもらうことが必要である。具体的には、おいで屋でのクラブ活動を近くにある小学校で紹介・開催したり、町内会などであかりで行っている体操やレクリエーションの紹介、制度についての説明をしたりすることを提案する。

7. 今後の研究テーマ

今後の研究テーマとして、主に NPO の地域活動について考察を深める必要がある。以下、次の二点に即して文献を挙げることにする。

- NPO の地域活動の流れ

熊田博喜、2004 年、『福祉 NPO とその組織特性-高齢者福祉分野を中心に』、武蔵野大学現代社会学部紀要 (5)、73-94

山王丸由紀子、2010 年、『介護をめぐる高齢者と家族-地域福祉実践を通じて』、家族社会学研究、22 (1)、23-29

- 地域活動の住民参加について

沼尾波子、2010 年、『地域コミュニティの役割と住民参加 (特集 今後の地域社会を考える)』、月刊自治フォーラム、18-23